

ナシ「幸水」の摘果指標

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部

研究のねらい

幸水においては、特に階級による価格差が大きく、大玉果生産は経営安定に欠かせない条件となっている。そのため、必要以上に摘果を行い、収量を10 a当たり2 t以下にしている園が多く見られる。

そこで、県内主産地の8園を選定し、満開1、2、3カ月後の果実横径と収穫時の階級との相関関係を3カ年間調査することにより、摘果基準の指標を作成した。

研究の成果

1. 満開1カ月後では、年や園によるばらつきが大きいため、この時点での県一律や産地別の摘果板作成は不可能と考えられる。しかし、この時点での果実横径と収穫時の階級とは、年別にみた場合、各園ともかなり高い相関関係があるので、園別の階級予測はある程度可能と思われる。
2. 果実横径が16mm以下のものはS以下になる可能性が高く、15mm以下のものは2S以下になる可能性が高い。
3. 満開2カ月後では、年や園によるばらつきが小さいため、この時点での県一律や産地別の摘果板作成は可能と考えられる。ただし、年により気象的な影響で肥大曲線が違ってくるので、より正確に階級予測を行うためには、気象的条件により3タイプ程度を作成する必要がある。
4. 果実横径が33mm以下のものはS以下になる可能性が高く、31mm以下のものは2S以下になる可能性が高い。

表1 満開1カ月後の果実横径による収穫時の階級予測

階級 年産	L 以上 mm	L mm	M mm	S mm	2 S mm	調査 園数
1,991	18.9以上	16.7～18.9	14.7～16.7	13.6～14.7	12.5～13.6	6
1,992	20.8以上	18.5～20.8	16.5～18.5	15.3～16.5	14.2～15.3	4
1,993	21.9以上	19.5～21.9	17.4～19.5	16.2～17.4	15.0～16.2	4
平均	20.5以上	18.2～20.5	16.2～18.2	15.0～16.2	13.9～15.0	

表2 満開2カ月後の果実横径による収穫時の階級予測

階級 年産	L 以上 mm	L mm	M mm	S mm	2 S mm	調査 園数
1,991	37.1以上	34.5～37.1	32.2～34.5	30.9～32.2	29.6～30.9	6
1,992	36.8以上	33.9～36.8	31.3～33.9	29.9～31.3	28.5～29.9	4
1,993	40.6以上	37.5～40.6	34.8～37.5	33.2～34.8	31.6～33.2	4
平均	38.2以上	35.3～38.2	32.8～35.3	31.3～32.8	29.9～31.3	